

つながりあって支える仕組みづくり (包括的相談支援の体制充実)

重層的支援体制整備事業に手をあげ、取り組むことになり、包括的相談支援については、制度のはざまに置かれて誰が対応したらいいかわからない、潜在的なケース（引きこもりなど）が目立つようになってきている。

断らない相談支援

(包括的相談支援)

健康福祉の里が整備してきたワンストップ相談窓口を活かして、属性を問わない、断らない相談支援体制の再構築を図る。

みんなでつながる

(多機関協働)

課題が複雑化・複合化しているケースへの対応は、多くの支援機関の協働で対応する必要があることから、つながりあって動く必要性を共有する。

つながるために手を伸ばす

(アウトリーチ等支援)

地域とのかかわりが少ない課題を抱えた人への対応について、アウトリーチ（手を伸ばす）を含め、つながるための支援方法を検討する。

さあ、どう進めるか…

お互いを知り、考えを共有することを基本として、 まずは、「顔合わせ」と「話し合い」から

○チーム会議（庁内連携プロジェクトチーム）

- ・ 事務担当者レベルでの気になるケースの共有
- ・ 業務の相互理解（相談支援について、それぞれの分野で行われていることを知る）
- ・ 重層事業を進めるにあたっての担当者の「困りごと」を話す場

聞いて聞いて！

○ケース共有会議（市支援会議）の発足

- ・ 複合化・複雑化したケースの洗い出し（どういうケースを多機関協働事業へ移行するか判断）
- ・ 気になるケースの共有とかかわり方（アウトリーチ）の協議

教えて

□社会福祉協議会との連携会議（月1回）

- ・ 市と社協が各々の業務について意見を交換する場
- ・ 重層事業の取り組みについても話を深める場となった

語り合い

○□重層的支援会議の開催

- ・ 支援の役割分担、支援プラン適切性の協議
- ・ 各支援機関の役割を見えるかするためのプラン作成
- ・ 既存の自立相談支援事業の支援調整会議と合同開催

やってみっぺし

○重層的支援体制整備事業の普及・啓発

- ・ 研修会の開催（庁内関係者向け・支援関係者向け）
- ・ 関係機関への事業説明（福祉関係団体など）
- ・ 関係部署とのヒヤリング（ケースカンファレンスへの出席など）

みんながかだって

多職種・多機関連携体制 (相談を丸ごと受け止め・適切につなぐ支援体制の構築を目指して)

